

## エッセイ

## 江戸時代の窓ガラス

高橋 正一

NHK大河ドラマ「西郷どん」第27回「禁門の変」で長州を破った薩摩が、負傷した長州兵を治療して、後日、長州に返すシーンがありました。

この時は使用されませんでした。が、4年後「鳥羽伏見の戦い」の時に、薩摩藩邸があった相国寺の塔頭の一つである養源院が野戦病院となりました。

養源院には山内唯一の薬師如来像があるという事で、野戦病院となったそうです。ここはまたイギリス人名外科医ウィリアム・ウィリスが通訳官のアーネスト・サトウと共に訪れ、日本で最初にクロ口ホルムを使って手術を行った場所でもあるそうです。

京都では夏と冬、観光客が減少するので、その対策の一環として、普段、非公開の文化財を「京の夏(冬)の旅」と銘打って短期間公開しています。

2016年の冬の旅では、この

養源院が公開されたので訪れたことがありました。

塔頭内には五摂家の筆頭である近衛家の桜御所から移築した相和亭という書院があります。

相和亭の前には美しい池泉回遊式庭園が広がっています(その向こうに同志社大学の斬新な校舎が見えてしまうのが「玉にキズ」ですが)。

さて、その庭を室内から鑑賞することができる相和亭の縁側前面の窓ガラスには「江戸時代(幕末)の製造である」という風説が流れていました(ちなみに、日本で初めてガラス窓を作らせたのは、仙台藩3代藩主伊達綱宗だとされています。綱宗は自分の屋敷に400枚もの輸入ガラスを取り入れたそうです)。

相和亭に限らず、京都の古建築を訪ねると、よく昔の「歪んで見える窓ガラス」に遭遇します。接近すると「絶対に割らないように！もう替えが無いから」と言われたりもします。

これらは、ネット・ブログなどにもよく「江戸時代のガラス」などと書かれています。実はこれ

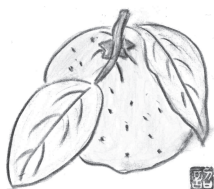
らのほとんどは明治時代以降に製造されたガラスなのでそうです。

相和亭の窓ガラスも、ご住職に確かめたところ「そういう事(江戸時代のガラスだとは)は言っていない」との微妙な回答でした。

現在、日常、我々が見慣れている全く歪みの無い、顔をブツけそうな透明板ガラスが量産できるようになったのは、比較的最近、戦後の事なのだそうです。

また、昔の日本の家屋では、木の扉や障子紙を貼った戸が一般的だったということもあり、歪んでいる窓ガラスにしても、その普及は近代になってからでした。

しかし、時々、特別公開される(今年9月15日〜11月25日)聖護院の「光格天皇仮御所上段の間」右奥のガラス窓などは、本当に江戸時代のガラスとのこと(寺側は一応、そういう説明をしている)。



相和亭のガラス窓



養源院 表門